

組合員一人ひとりが活動家に を合い言葉に 勝浦支部大会開かる(11/27)



鶴岡 新支部長(前列右より4人目)の音頭で「団結ガンバロー」。

勝浦支部第五回定期大会は、十一月二七日運転区講習室において開催され、代議員とそれを大きく上まわる評議員の活発な討論により、「八〇年代に通用する労働運動を組合員一人一人が活動家になり構築しよう」とする執行部方針を確認決定し、その先頭に立つ新しい執行部の選出を行った。

関川委員長
・水野副委員長
・中江顧問が激励のあいさつ

大会には、本部より関川委員長・水野副委員長・中江顧問・鶴岡特執が来賓として参加され、関川委員長は本部を代表して、「動労中央より独立以来激動の中をのりきってきた皆さんに感謝する。唯一闘う組織としていた動労本部が労働者を裏切り、闘おうとしている国労の足を引っ張るという情勢の中で下部の労働者は怒りをもって闘いに起ち上っている。中曾根内閣の発足により戦争政策・行革推進による労働者への攻撃はますます強化されてくるであろう。動労千葉は結成当初より働く者の立場に立つて動労本部からさまざまな攻撃にあいつつもふんばって来た。中江選挙を通じて地域住民の中に動労千葉の運動を拡げていくことが大切である。そして、地域住民と共に軍拡や臨調攻撃を粉砕してゆかなければならない。動労千葉地方本部は、労済加入や県労連加入についても拒否されている状態であり、動労千葉は、県労連からも評価されている。我々はいままで苦しい中を歯をくいしばって闘ってきたその団結力が国鉄当局をして無視できない存在となっている。新しい執行部のもと更に団結を強化し闘ってほしい」とあいさつ、水野副委員長は、「五七・一〇ダイ改において本部動労は第二臨調の民営分割のどろり喝に屈服し、先行して労働協約を結び国労Ⅱ国鉄労働者の闘いの圧殺にかかった。このことにより国労と動労の生産点において怒りの弾

効が行われている。動労大改革の展望が切り開かれている」とあいさつ、中江顧問は、労働運動にかかわってきた経歴を話されたのち「動労革マルは、労働運動と無縁である、この大会で話したことがあるが、五七・一〇で彼らの姿がはっきりした。我々は、三年間苦しい闘いを強いられて来たがその闘いの中にかちとられたものは、全国の労働者の羨望と期待となっている。私は、船橋市議選に立候補するが、単に議席の確保だけでなく地域の中に動労千葉の闘いを拡め現在の政治情勢をかえるためである。政治反動のきびしい中で潜在的な力をどうほりおこして行くのかの闘いであり、全力をあげて闘っていく」と力強い決意表明があった。

父、組織外より辻田実氏がみえられ、動労千葉への連帯のあいさつを受けた。

闘う方針を満場一致で確認

大会は、照岡執行委員の開会のことばにはじまり、議長に藤本剛氏を選出、執行部より経過と決算及び方針・予算が提案され、乗車証問題、「五七・一〇ダイ改」、現場協議、政治反動と労戦統一について、三里塚闘争について活発な討論が展開され、その中から今年度の運動方針が確認決定され、最後に新たに選出された鶴岡支部長の音頭による団結ガンバローにより大会を終えていった。

新役員

執行委員長	鶴岡 直芳	四四	気運士
副委員長	照岡 精一	三三	電運士
書記長	中村俊六郎	三五	〃
次長	鈴木 忍	三五	〃
執行委員	君塚 時雄	三六	〃
〃	丸島 隆直	四五	〃
〃	高田 興治	四三	検査係
〃	吉野 六郎	二八	電運士
〃	田中 広胖	三六	〃
〃	沢 晴郎	三八	〃
特別執行委員	丸 幸一	四九	〃
〃	高師富士男	二六	〃
会計監査委員	江沢 脩	三三	〃
〃	高梨 由一	二〇	事務掛

日刊
動労千葉

82.12.3

No. 1210

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電二九三五・六・公港局三三三)22七二〇七